

できることから始めよう！
命と尊厳と活力を守れる避難所運営に向けて
令和6年能登半島地震・石川県穴水町の事例から

認定NPO法人レスキューストックヤード
常務理事 浦野 愛

避難所とは？

＝被災者の本格的な生活再建を支える中継地点

- T(トイレ)、K(キッチン)、B(ベッド)、B(バス/風呂)、L(ランドリー／洗濯)⇒「暮らしの基盤」
- 人との関わりが絶たれない⇒「つながり」「役割」
- 公的支援制度や家の修繕、ボランティア⇒「情報」
- 仕事・学校、通院、買い物⇒「移動」

避難所で「暮らしの基盤」を回復させることで、心身の健康と自尊心を守り、まともな判断力を維持しながら、活力が低下しないようささえていく

様々な得意を持った人達が力を持ち寄ることが大切

トイレ講習会の開催



みんなこのままじゃだめだ！

と思っていた

ロコミカは効果絶大、やれる人がやれることを
4日後には……



やり方を知り、物さえそろえば人は動く

トイレ+αの検討も忘れずに



ラップポン 物だけあってもダメだった



- ・電源確保
- ・四方が覆われている
- ・鍵がかかる
- ・音漏れがしない
- ・夜間の灯りの確保
- ・手すり
- ・汚物を捨てる場所 など

要配慮者スペース



「ああ、よかった！」と思いきや..

- 対象者を特定・判断できない
- レイアウトの方法や必要物品が分からない
- 介護用ベッドや介護用トイレが足りない
- 24時間常駐の看護・福祉の専門職がない
- 家族の負担軽減、リフレッシュ
- 本人のADL低下防止、リフレッシュ
- 従来の福祉サービスへのつなぎ



要配慮者スペースの確保で改善！



次の課題
が山積



- アセスメントの実施
- ベッドや介護用トイレの手配、配置
- 一般スペースからの引越し手伝い
- 専門職ボランティアの確保、シフト組み
- 日中活動の企画・運営
- 福祉課、保健医療調整本部等との情報共有

これを全て理解し、包括的かつ迅速に調整できる人が少ない
実際は..NPO、専門職、行政等気づいた人がその都度対応
気づく人がいなければそのまま

配慮が必要な人を特定する

まずは、できるだけ誰が、どこで、どのような状態での
か個人を特定、紙に記録し関係者と共有

☞ <福祉避難スペース入居者：当事者・介護者共に RSY が持参した段ボールベッド支給>☞

氏名	気になる方☞	状況・対応☞
	(82歳)☞	杖歩行、パーキンソン、82歳の妻が介護☞
	(72歳)☞	車椅子（車椅子を押して歩行可能）、体力・気力低下、尿臭あり☞
	(80歳)☞	車椅子（脳梗塞・大腸がん）、80歳の妻が介護☞
	(87歳)☞	杖歩行、全盲、85歳の妻が介護（ひざ痛あり）☞
	(70歳)☞	脳梗塞、認知障害、69歳の夫が介護☞
	(96歳)☞	胃痛などの体調不良、疲労蓄積による衰弱への懸念、71歳の娘が介護☞
	(26歳)☞	ダウン症、61歳の母親と86歳の祖母（ふらつきあり）が介護☞
	(82歳)☞	車椅子（脳梗塞・心疾患）、80歳の妻が介護☞
	(60歳)☞	統合失調症の悪化（著しいADL低下、食事・排泄に介護が必要）☞ →相談支援員を経由し精神科受診、現在入院中☞

☞ <感染症隔離部屋／2階図書室・多目的ホール3奥スペース>☞

氏名	氏名	状況・対応☞
	(52歳)☞	うつ病・パニック障害、インフルエンザ発症（9日）、60歳の夫が介護☞
	(68歳)☞	インフルエンザ発症（9日）☞
	(77歳)☞	インフルエンザ発症（6日）、54歳の娘が介護☞

食事

（当初の町の報告）

- 地域で助け合って炊き出しができています
- 全国から頂いたアルファ化米やパンの缶詰、レトルト・缶詰は各避難所に配給しているので、食の問題はない

↓ 実態は..



食事の改善



- 「ああ、よかった！」と思いきや・・・
- 炊き出しの問い合わせが行政に殺到
 - 支援の偏り(地区・メニュー・規模)
 - 安定的に供給できない
 - 食中毒や感染拡大の心配
 - 高齢者、持病のある人、アレルギー患者は食べられない
 - 高カロリーで持病悪化、体重増加
 - 「してもらっただけ」の避難者＝依存助長

↓
炊き出しで改善！



↓
次の課題が山積



- 受付窓口の一本化、ルールづくり
- スペシャルニーズの把握
- 地元飲食店への打診や介護食等の手配
- 避難者への調理場の開放
- 食堂の設置、日中活動の企画・運営

これを全て理解し、包括的かつ迅速に調整できる人が少ない
実際は・・・NPO、専門職、行政等気づいた人がその都度対応
気づく人がいなければそのまま

【穴水町】NPO等と連携したセントラルキッチン方式による炊き出しの実施

- 穴水町では、避難生活が長期化する中で、避難者に栄養バランスの取れた食事を提供するため、**町有施設の厨房を活用した仮設セントラルキッチンを整備**し、ここを拠点として炊き出しを実施。(2月27日～)
- 持続的な運営形態を確保するため、**地元料理人を雇用**するとともに、資機材・食材費・人件費等には**災害救助費を活用**。
- 準備にあたっては、すでに穴水町で炊き出しを行っていた**県外のNPOやボランティア料理人が町役場に全面的に協力**。

<取組のポイント>

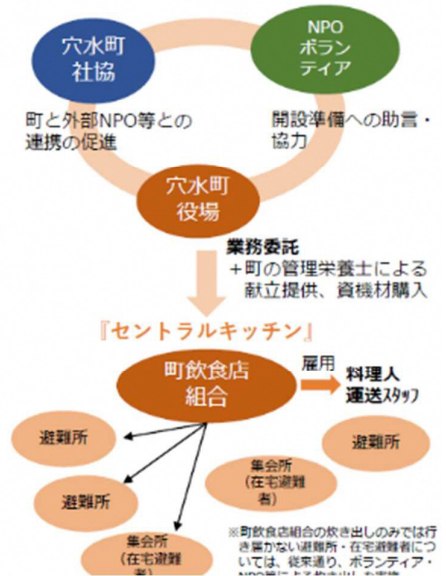
- ・セントラルキッチンは、市内の「林業センター」の厨房を活用。冷蔵庫、鍋・釜等の資機材を新たに購入。
- ・料理人は、被災した町内飲食店の雇用創出も兼ねて、地元飲食店組合の事業者から募集。運送スタッフも雇用。
- ・献立は、町の管理栄養士が、支援物資(アルファ化米や缶詰)も活用して立案。食材は、地元スーパーから調達。
- ・町内の避難者(避難所、在宅)全体の配食計画を検討し、小規模避難所や在宅避難者向けにも配食を実施。
- ・町役場主導の取組だが、NPO(レスキューストックヤード)、県外のボランティア料理人らが全面的に協力。また、災害救助費の活用について内閣府リエゾンが助言。



セントラルキッチンでの炊き出しの様子



町役場での連携、炊き出し、配食業者の打ち合わせ



<取組状況> (3月6日時点)

- ・全10人程度の料理人が、5人程度/日のシフト制で従事。
- ・毎夕150食程度を調理。避難所及び集会所等(在宅避難者向け拠点含む)の約5~10カ所に配達。
- ・NPOが支援していた避難所からも炊き出し・配送を実施。
- ・穴水町内での自衛隊の炊き出しは3月3日で終了。

自衛隊炊き出しアンケート(n202)

利用者の7割が在宅等避難者。全体の2割がトイレ・台所・お風呂が使えないと回答。うち6割が炊き出しを希望。見守り、心身の健康や生活課題等を把握する機会にも。



寢床



「ああ、よかった！」と思いきや..

- 数が全員分ない
- 組み立て要員が足りない
- レイアウトの再編成が必要
- マットや布団の導入
- リネンの取り換え
- ダニやカビの衛生対策
- せっかく準備しても「必要ない」
- 寢床から出て来ない

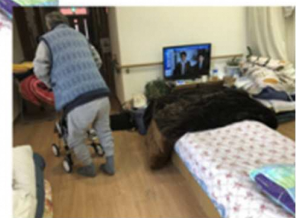


- 優先度の高い人の判断
- 他の避難者の合意
- 正しい寢床の整え方の知識
- 必要物品の調達と導入の段取り
- 使用すべき人への根気強い促し

これを全て理解し、包括的かつ迅速に調整できる人が少ない
実際は..NPO、専門職、行政等気づいた人がその都度対応
気づく人がいなければそのまま

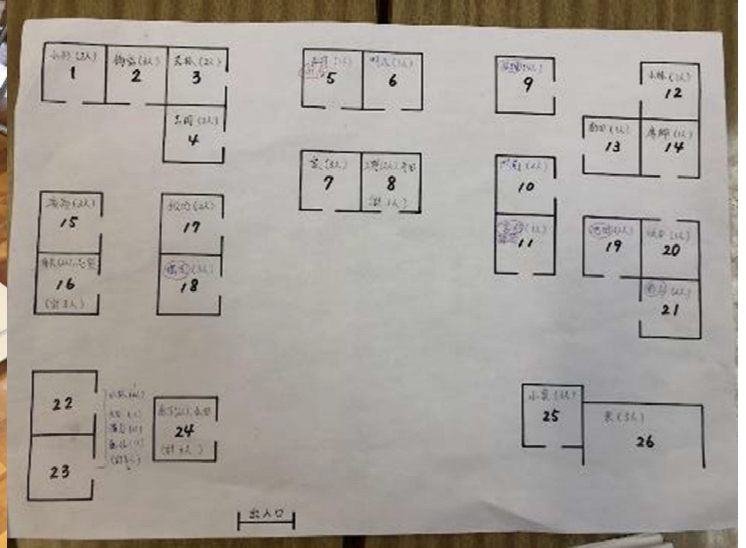


簡易ベッドの効果
立ち座りがスムーズ
一人で動ける・トイレにいける
↓
自尊心・活力の維持向上



物は必要な数すぐに届かない
優先順位を決めて活用する工夫を





「まともな生活環境」を求めることは わがままではない！



せっかく届いた寝具セットが山積み...
「今までこの環境に耐えてきたんだから、
このままでいい」

不眠、心身の疲れ、諦め……追い詰めら
れた結果生まれた「拒否」と「頑なさ」



看護師が医療的側面から寝具利用
が健康に及ぼす効果を説明

土足禁止の徹底



ゴミステーションの設置





運営への住民参加や、積極的なボランティアの受け入れの効果

- 衛生環境の維持、向上
 - 感染症の抑止、気持ちよい居住空間の確保
- 活力の低下防止(生活リズムが整う、達成感、人の役に立てる)
 - 生活基盤喪失後の自信回復(自分らしさや意欲を取り戻す)
- コミュニケーションの活性化
 - 合意形成、早期発見、偏見・差別防止

支援の全体像の共有

町・社協・NPO等 3者定期協議

2024年1月16日～3月までは毎週・4月からは隔週(現在に至る)

17:00～18:00の1時間@穴水町役場

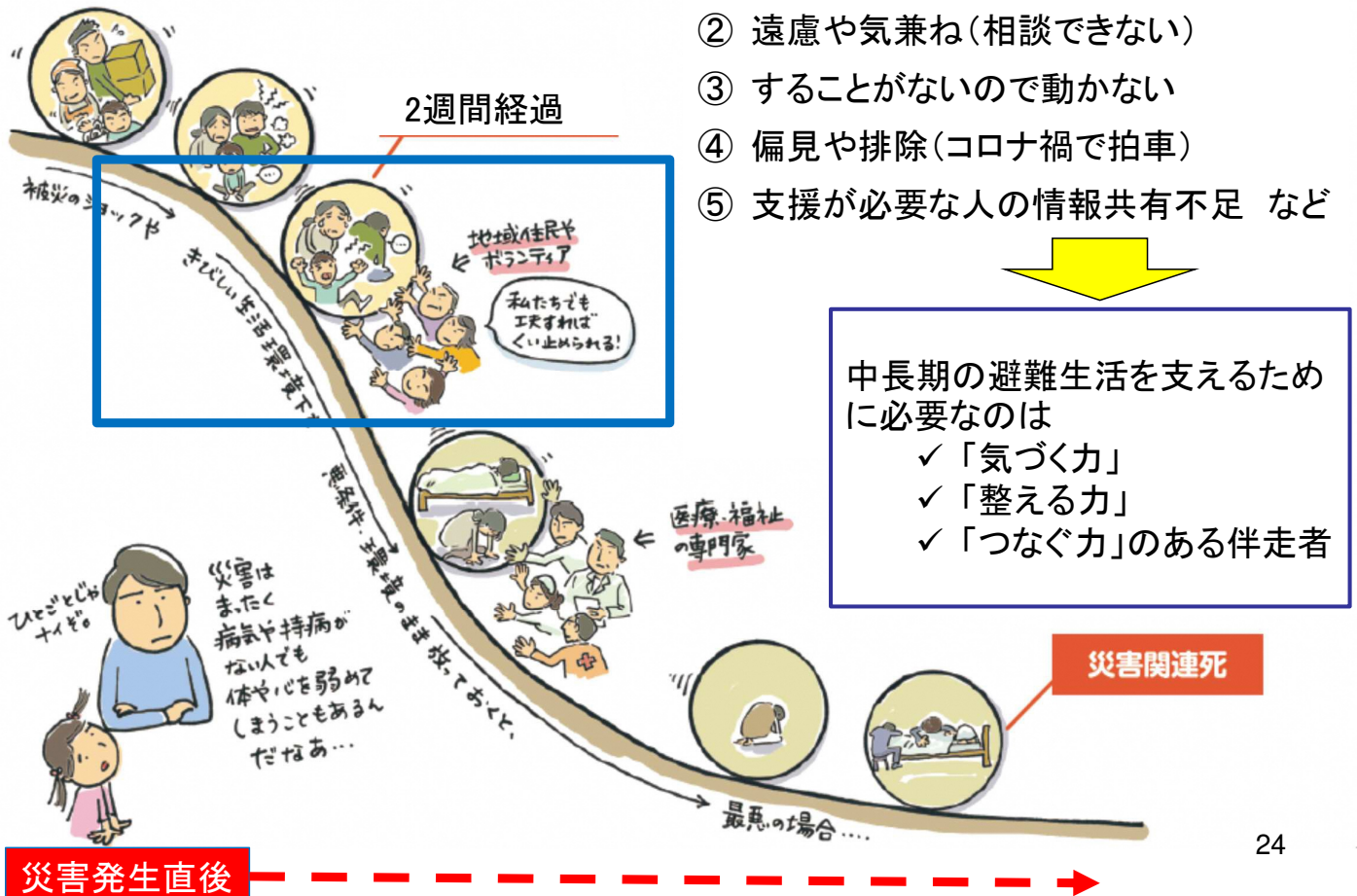


災害ケース検討会議

2024年5月2日～隔週(現在に至る)
15:00～17:00の2時間@穴水町保健センター



災害関連死発生の流れ



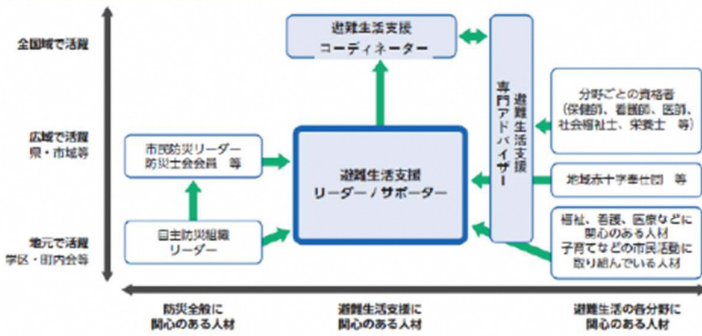
避難生活支援リーダー／サポーター研修について（令和4年度～）

（「避難生活支援・防災人材育成エコシステム」の構築）



- 内閣府では、災害の激甚化・頻発化等により避難生活が長期化する中、地域のボランティア人材に、**避難生活環境改善のための知識・ノウハウを身につけてもらうためのモデル研修を令和4年度から開始。**
- 今後10年間で全市町村で本研修を実施することにより、地域のボランティア人材の発掘・育成を図り、発災時には行政職員や支援者等と連携してもらい、**良好な避難生活環境の確保を図ることにより、「災害関連死・ゼロ」の実現を目指す。**

避難生活支援リーダー／サポーターとは



- 「避難生活支援リーダー／サポーター」とは、避難所運営の基本的スキルを習得し、**自治体や支援者等とともに、避難所の生活環境向上に率先して取り組むことができる人材**
- 当該人材を各地域で発掘・育成するために、内閣府主催の「避難生活支援リーダー／サポーター研修」モデル研修を全国で開催
- モデル研修のほか、自治体による自走式研修の開催も支援

⇒ これ以外にも、運営に関わる担い手と連携した環境改善に率先して取り組む人材「避難生活支援コーディネーター」や、医療・保健・福祉等の専門的な知見を活かした支援・助言をするとともに、リーダー／サポーター、コーディネーターと連携できる人材である「避難生活支援専門アドバイザー」を育成するための仕組み・研修プログラムも、引き続き、関係者や各分野のニーズ等も踏まえて再検討

避難生活支援リーダー／サポーター研修（令和7年度）

研修プログラム	・オンデマンド講座（事前視聴） ・基礎講義、グループ討議、演習 など、研修期間2日間
モデル研修	○弘前市(青森) ○高崎市(群馬) ○富津市(千葉) ○豊島区(東京) ○新発田市(新潟) ○小矢部市(富山) ○白山市(石川) ○大野市(福井) ○市川三郷町・早川町・身延町・南都町・富士川町の5町合同(山梨) ○筑北村(長野) ○下呂市(岐阜) ○富士市(静岡) ○西尾市(愛知) ○岡岡市(京都) ○和泉市(大阪) ○西宮市(兵庫) ○鳥取県 ○真庭市(岡山) ○三原市(広島) ○山口県 ○松山市(愛媛) ○四万十町(高知) ○福岡市(福岡) ○菊陽町(熊本) 計24市町村
自走式	○岡崎市(愛知) ○瀬戸内市(岡山) ○多良木町(熊本) 計3市町村



研修テキスト



グループ討議



避難所の環境改善演習

令和7年度事業予定

- モデル研修開催(24市町村)、自治体による自走式研修の支援(3市町村)
- 研修参加者拡充の検討（関連団体との連携）
- 既存の類似研修（例：避難所運営研修）との連携の検討
- 研修講師の養成、研修受講者へのフォローアップ
- 研修修了者のデータベース構築（R7年度中運用開始予定）